

今後の予定とお知らせ

2021年1月～12月までの研究スケジュール

『すくすくコホート三重』では、中学校3年生はすでにご返送いただいた方もおられますが2学期に質問票をお送りいたしました。引き続きご返送をお待ちしております。高校1年生は例年通り3学期に、郵送による質問票調査を予定しております。ご自宅へ質問票を送らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
高校1年生	郵送によるアンケート			(進級)高校2年生								
中学3年生				(進学)高校1年生・就職		進学後・郵送によるアンケート						

『武庫川チャイルドスタディ』では、中学2年生、中学1年生を対象に、3学期に郵送による質問票調査を予定しております。

昨年度のニューズレターでは中学2年生の観察のご案内をしておりましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、2020年度の観察は中止することといたしました。2021年度も再開の目は立っておりませんが、慎重に検討し判断したいと思います。その際には郵送にてご連絡をさせていただきます。先を見通しづらい状況でご不便をおかけしますが、スタッフ一同みなさまにお会いできるのを楽しみにしております。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中学2年生	郵送によるアンケート			(進級)中3		中学3年生観察を実施(未定)					郵送によるアンケート	
中学1年生	郵送によるアンケート			(進級)中2		中学2年生観察を実施(未定)						

転居などでご住所や連絡先が変更になった方は、お手数ですが各研究グループへご連絡ください。遠方へ転居の場合も質問票のみでもご協力を継続していただくと幸いです。引き続きご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記

今回のニューズレターでは、追加で行った「環境・健康調査」の結果からコミュニケーションについての分析をご紹介いたしました。変化の多い1年でしたが、新しい課題が見えた1年でもありました。

武庫川チャイルドスタディでは中平が退職し、後任として坂田が参加しました。17年に渡る研究の重みを感じつつ、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

今後さらに充実した内容をお届けできるよう、皆さまからのご意見やご感想、ご質問などもお待ちしております。

【すくすくコホート三重】

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL: 059-259-1211(代)

【武庫川チャイルドスタディ】

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学 教育研究所 子ども発達科学研究センター
TEL/FAX: 0798-45-9880 Email: info@childstudy.jp



すくすくコホート

令和2年度号

ニューズレター



研究統括からのご挨拶

ニューズレター令和2年度号によせて

研究統括 河合優年



研究統括：河合優年

平素は研究活動へのご協力をいただき、心から感謝いたします。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックという、人類が経験したことのない状況においても、これまでと変わることなく調査にご協力いただけることは、私たち研究グループにとっても大きな力となっています。

この研究が開始されたときは、今日のようなスマートフォンやSNSなどの情報環境はありませんでした。この15年の間に社会は大きく変化したと言えます。この追跡研究の意味は、この急激な変化のまっただ中で育った子どもと、その保護者の意識や行動が捉えられているということにあります。私どもが知っている限りでは、現在心理社会的情報を追っている調査研究は、わが国にはありません。皆様のご協力がなければ、この国宝的な資料は蓄積できませんでした。

現在、小学校までのデータの集約が終わり、全体的な傾向の分析に入っています。来年には、その一部をまとめて報告したいと考えております。その節には、皆様の感想なども募集させていただきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症が収束し、みなさまのもとに再び日常が戻りますように。今後ともよろしくお願い申し上げます。

『すくすくコホート三重』から研究協力者のみなさまへ 三重中央医療センター 田中滋己

『すくすくコホート三重』の研究に参加いただいている皆様、今年度も本研究に御協力を賜り心から御礼申し上げます。

令和元年の暮れから始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックのために皆様、大変な影響を受けておられることと存じます。コホート研究でも COVID-19 の影響を考慮して皆さんに調査をお願いしているところです。1年前には、COVID-19 のパンデミックによる影響によって、世界中の生活での行動様式が、これ程までに変容することを誰が予測し得たでしょうか。

治療法やワクチンによる予防が確立されるまで、私たちはウィズコロナの生活パターンを根気強く続けていかなければなりません。

治療法や予防法の確立までには少なくとも2、3年を要すると言われておりますが、これも不確定要素が多く正確な予測はとても難しいと思います。先の見えない不安もありますが、明けない夜はありません。長期戦に備え、健康に万全を期してウィズコロナの生活様式を維持して行きましょう。

さて本研究もいよいよ解析結果をまとめる段階に入っています。今後も引き続き研究協力を賜りますようお願い申し上げます。



5月、7月に追加で実施いたしました環境・健康調査結果のご報告

新型コロナウイルス感染症による臨時休校と緊急事態宣言を受けて、子どもたちがどのような状況で過ごしているのかをお伺いするため、今年5月と7月に、通常の調査に追加して環境・健康調査をお願いいたしました。ご返送いただいた多くの協力者のみなさまに心よりお礼申し上げます。また、調査協力どころではない大変な状況でお過ごしであった方もおられると思います。お見舞いを申し上げますとともに、現在の第3波が少しでも被害が少なく済むようお願いしております。

さて今回のニューズレターでは、この調査結果の一部をご報告いたします。回答のあった127名の子どもたちは、どんなコミュニケーションをしていたのでしょうか。なお、これらの結果の一部は、日本青年心理学会において学会発表を行いました。

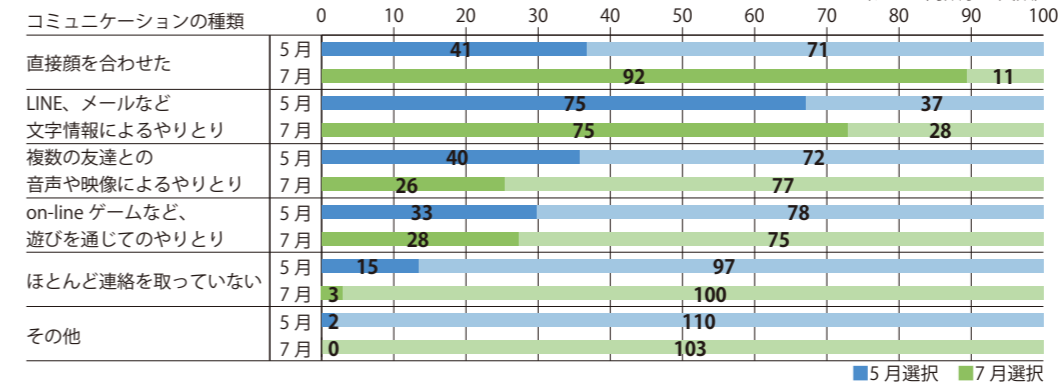
り取り頻度が高い子どもたちもいましたが、少数でしたので、文字情報群と統合しました。

この4群の子どもたちは、どんなことを話していたのでしょうか。図2-1から4には、それぞれの話題をグラフにしました。やはり学校からの課題や勉強のこと、学校や授業、先生のことがどの群も多いようです。群によって、話題はちょっとずつ異なるようで、やはりゲームの子どもたちはゲームのことをたくさん話しているようですし、文字・映像の子どもたちは、会えない分なのでしょうか、その原因となる健康や感染症に関する話題が他の群よりも多いようです。

では、この4群の子どもたちは、生活の中でどんな気持ちを抱えていたのでしょうか。QOL（生活の質）の得点変化を見てみましょ

う。統計的に差があったのは、身体面、家族、友だちの各領域でした。身体面では、5月よりも7月で得点が下がっていました。学校が再開されて、少し疲れてきていたのかもしれないですね。また、家族領域では5月の得点が高い、という結果でした。家にいる時間が長く、ご家族と話したり行動を共にしたりすることが多かったからでしょうか。保護者の方からも、家に子どもがずっといると大変！ というご

■図1



まず、図1に示した結果は、友だちとのコミュニケーション手段です。5月と7月で大きく違うのは、直接顔を合わせた、という項目です。これは、5月は自宅にできるだけ留まるよう求められ、そして7月にはほとんどの学校が再開されていたので、当然かと思えます。ほとんど連絡を取っていない人が減ったのも同様の理由かと思えます。そして、Zoomなどの音声や映像によるやり取りは少し減りました。これは、直接会えるので必要なくなったのか、あるいは学校に行きだしたら忙しくなって時間が合わなくなったのかもしれませんが。一方で、LINEなどによる文字情報のやり取りと、オンラインゲームは、5月、7月で大きな違いはありませんでした。ちなみに、3：1くらいの比率で文字情報のやり取りは女子が多く、オンラインゲームは男子が多かったです。

この回答と、どのくらいその手段を使っていたかというパターンから4つのコミュニケーションタイプを群分けしました。まず、ほとんど連絡を取っていなかった、もしくは取っていたけれども非常に頻度が低かった子どもたちを「低コミュニケーション」群としました。次にオンラインゲームによるやり取りが主であった子どもたちを「ゲーム」群としました。そして、直接顔を合わせている頻度の高い子どもたちを「高コミュニケーション」群としました（会っているからと言って、他の連絡手段を使っていなかったわけではありません）。残りの子どもたちは、主に文字情報でのやり取りを主体としていましたので「文字情報」群としました。なお、Zoom等によるや

意見が多かったものの、いつも忙しくてあまり会話をする時間がなかったが、この機会に色々話せてよかった、という感想もお寄せいただきました。そういったことが反映されているのかもしれませんが。そして、友だちの領域では、特に低コミュニケーション群の子どもたちの得点が大きく変化しました。5月で低かったものが、7月には他の子どもたちと変わらない値になりました。学校が再開され、友だちとの交流が増えたんですね。良かったです。全体として、概ね中央値よりも高い値で推移していますので、回答を寄せてくれた子どもたちは、休校や緊急事態宣言の中でも、比較的QOLを保って健康に過ごせていたのかと思えます。

調査を企画した当初は、友だちに会えないだろうし、ずっと家にはさぞかし子どもたちはストレスをためて大変だろう、と思っていたのですが、インターネットを介したコミュニケーションを自由に操れる子どもたちは、色々な手段を駆使してこの状況を乗り越えているのだと感じました。しかし同時に、そのようなコミュニケーション手段を持たない子どもたち、あるいは持っているも何らかの理由でコミュニケーションを取るに至らない子どもたちに対して、どうアプローチすればよいのか知恵を絞っていかなくてはなりません。これからの with コロナ時代のコミュニケーションのあり方は、対面のコミュニケーションが主体であったこれまでと大きく変わっていくでしょう。子どもたちの変化と共に丁寧に見守っていきたいと思います。

